

# 「売れたらよかなあ」

～野菜の無人販売を通して  
自立支援の在り方を探る～

施設名：デイサービス みなみ はなぶさ

発表者：介護福祉士 南 あゆみ



## <研究目的>

●自立支援の一環として利用者が持つエンパワメントの実現を目指し、野菜の無人販売計画を立案、実行する取り組みを試みたのでここに報告する。



## <研究方法・期間>

(1) 第1期 期間:平成27年3月1日~12日

○野菜の無人販売計画の提案

### <内容>

- ①野菜の無人販売計画の意義を理解して貰う。
- ②利用者が主体的に無人販売所の製作から販売計画の実施、売上集計・管理まで行うこと。そして、スタッフは間接的にサポートする。



## <研究方法・期間>

(2) 第2期 期間:平成27年3月13日~27日  
○試販売、聞き取り調査、結果の検証。

(3) 第3期 期間:平成27年3月28日~7月31日  
○作付け、収穫、販売の実践、聞き取り調査、結果の検証。



# <結果> 第1期(平成27年3月1日~12日)



## ◆無人販売実施の提案。

レク時間等を利用して、スタッフより主旨の説明を行うが最初は反応薄い。言い回しを変える等の工夫した。

→ その後、多くの利用者から「やってみよう」と賛同を得る。

## ◆無人販売所の製作、設置。

男性利用者が仕事歴を活かして積極的に関わる。敷地に設置。



# <結果> 第2期(平成27年3月13日~27日)



## ◆試販売の実施。

スタッフの働き掛けで「つわ、ひじき」を試販売。利用者は進んで作業(つわ剥き、天日干し、袋詰め、購入者に見て貰う参考レシピ作成、品物出し、回収、販売後の集計等)に取り組んだ。

★地域住民からも興味を持たれた。売れゆきが良かったこともあり、利用者は驚きと喜びを感じた。次の販売に意欲を示した。



# <結果>

## 第3期(平成27年3月28日~7月31日)



収穫、販売

種を育てる

### ◆利用者主体の実施を試みる

スタッフが介入を控えて、利用者主体で取り組むように働き掛ける。結果としては、意図していた利用者の主体的な取り組みは出来なかった。その為に、第2期と同様にスタッフが提案しながら畑やプランターを利用して作付、収穫、販売等を行った。



## <まとめ>

- 利用者の主体的な活動には意識改革を含めて多くの働き掛けを要する。
- 選択肢の限られた場面においては多くの利用者が生活歴の中で培ってきた技能を十分に発揮した。
- 利用者が主体的に目的意識を持って活動に取り組めるようにするにはスタッフの意識改革が必要である。

